

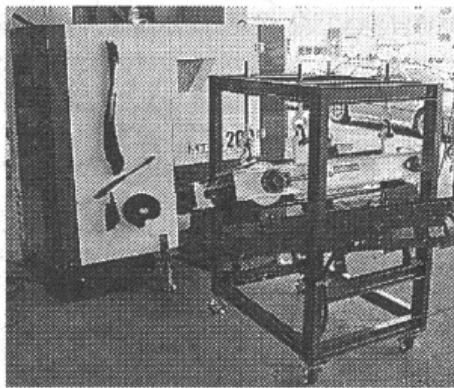


の置 ゴミ装 資源破 資破

増産備え 製造内製化

エムダイヤ 部品加工機を増設

機械メーカーのエムダイヤ(富山県上市町、森弘吉社長)は資源ゴミを破碎・分離する機械の生産体制を強化する。約6000万円を投じ、この機械の部品を作る加工機



を工場(同県滑川市)に導入。11月にも稼働させる。従来、他社に生産委託していた分を内製化し、需要に応じて迅速に増産できるようにする。

この破碎・分離機は「エコセパレ分離・破碎機」写真。内部のローターにつけられた刃先の違う複数の刃で、投入された資源ゴミを素材ごとに分離したうえで、細かく破碎する。

例えば、ケーブルなら、

表面の樹脂をそぎ落とすように取り除き、金属部分と分離する。従来は破碎と分離にそれぞれ専用機が必要だった。廃タイヤや光ファイバーなどに対応可能という。

従来、自社工場で年産15台、外部委託で15台の体制だったが、新たに部品加工機を増設することで当面、自社工場能力を年産30台にする。

海外への拡販にも取り組む。11月に仏リヨンで

開かれる欧州最大級の環境系の見本市に出展するほか、アジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳会議などが横浜市で開かれるのに合わせ、日本貿易振興機構が設けるブースに参加する。